【全国初】肘折地区で観光客にも配慮した地域の防災を考える!

~[第2回]地区住民と避難ルールを検討~

近年頻発する豪雨により、毎年のように河川氾濫や土砂災害が発生しています。その中でも、普段から防災訓練などを通じて過去の災害や地域の 危険を知り、緊急時の避難ルールを決め、住民同士が声を掛け合い早めに 避難したことで難を逃れた事例が多くあります。

県内でも有数の温泉観光地である大蔵村肘折地区では、国・村及び大学 (岩手大学、弘前大学、秋田大学)が連携し、過去の災害や危険な場所、 防災気象情報などを学びながら、地域住民だけでなく観光客の命を守るた め、「まるごと甲ごとハザードマップ※」の作成に取り組んでいます。

10月1日(日)には、7月に実施した「まちあるき」で確認した危険な場所などの情報をもとに、豪雨時の避難経路や避難方法、避難のタイミング等を検討する「図上検討会」を行います。

※1) 国土交通省では、平成 18 年 7 月から生活空間である市街地に水災にかかる各種情報を洪水関連標識として表示する「まるごとまちごとハザードマップ」を推進しています。これを基に新庄河川事務所では、土砂災害版として「まるごと里ごとハザードマップ」と呼び、避難誘導標識の他に手作りの避難経路図の作成に取り組んでいくものです。

≪開催概要≫

■日 時: 令和5年10月1日(日)13:00~15:00

■場 所: 肘折センター

■参加人員 : 大蔵村肘折地区住民、大学及び関係者 約30名程度

《発表記者会:山形県政記者クラブ、新庄新聞放送記者会》

間い合わせ先



国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所 山形県新庄市小田島町 5-55 TEL 0233 (22) 0262 (流域治水課直通) 流域治水課長 土門 弘和



大 蔵 村

山形県最上郡大蔵村大字清水 2528 TEL 0233 (75) 2111 (代表) 危機管理室 消防防災主査 八鍬 弘

<参考>土砂災害から命を守る「まるごと里ごとハザードマップ」の概要

- ・大蔵村肘折地区では、平成24年の融雪に伴う大規模な地すべり性斜面崩壊による銅山川の河道閉塞や県道57号 の被災による孤立化、令和2年7月の豪雨による護岸の流出などの被害等が発生しています。
- ・肘折地区は古くから宿場町として栄えており、現在も年間を通して湯治客や観光客が多く訪れることから、地域住民が 自ら避難し、観光客を安全な場所に誘導できるよう「まるごと里ごとハザードマップ」を作成します。

(R4.10.7 実施) 1. 地区役員への事前説明会 (R4.12.13 実施) 2. 住民代表への説明会 3. まちあるき (R5.7.9~10 実施) 令和5年度 今回の取組 4. 図上検討会①[避難経路や避難方法等の図上検討会] (R5.10.1 実施) (R5.12 月予定) 5. 図上検討会②[避難タイミングや避難ルール等の検討会] (R6.6 月予定) 6. 避難実働訓練 和6年 7. 意思決定訓練 (R6.9 月予定) 8. まるごと里ごとハザードマップ配布と避難誘導看板設置 (R6.12 月予定) まるごと里ごとハザードマップ作成までの流れ



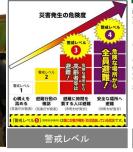
山形県最上郡 大蔵村肘折地区 (最上川水系銅山川流域) 対象地区

「図上検討会①」の概要

まちあるきで確認した危険箇所などの情報を基に、避難するタイミングや避難場所、避難経路、異常を発 見した時や避難する際の情報連絡体制、夜間など逃げ遅れたときの対応、要配慮者の避難方法などを検討し ます。特に、肘折地区は観光地であり、観光客や湯治客の安全・安心を確保するための避難誘導等について も検討します。また、避難を判断する際のきっかけとなる情報として、防災気象情報や警戒レベル、避難情 報に加え、自ら地区の危険度を把握するため、大雨警報(土砂災害)の危険度分布の意味や確認方法などに関 する学習も行います。









「まちあるき」の結果(7月9、10日実施)

住民のみなさまと地区内を歩いて、土砂災害警戒区域や浸水区域の範囲、過去に災害が発生した箇所、住民 のみなさんが雨の時に普段から危険だと感じている場所や、指定避難所・緊急避難 場所、避難経路等を確認しました。また、住民のみなさまが共通の認識を持つため、









大蔵村肘折地区 図上検討会 集合場所のご案内

- 1. **集合時間**: 10月1日(日) 12時50分までにお集まりください。 ※13時から検討会を開催します。
- 2. 集合場所: <u>肘折センター(2階)</u>

[〒996-0201 山形県最上郡大蔵村南山 507]

※お車は「肘折いでゆ館駐車場」に止めてください。

